

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	3Rの推進		
施策	②未利用資源の活用の推進			
(施策の小項目)	〇バイオマスの活用			
主な取組	オガコ養豚普及促進事業	実施計画 記載頁	27	
対応する 主な課題	〇本県の世界に誇る自然環境を保全することに加え、本県は狭隘な地理的条件にあることから、廃棄物の減量化など環境負荷を軽減する循環型社会を構築する必要があり、県内で発生した廃棄物の有効利用が求められている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	養豚における悪臭対策に優れるほか、効率的にふん尿の再利用ができるセルフクリーニング式オガコ養豚の普及を図るため、オガコの安定供給に向けた調査、講習会の開催・データ収集など普及啓発に取り組み、オガコ養豚方式導入に向けた豚舎改修などの費用助成を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	17戸 改修等 支援農家数			→	50戸		
	オガコ養豚施設への改修等支援					→	県
				未利用資源の活用促進			
担当部課	農林水産部畜産課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
オガコ養豚普及促進事業	74,920	46,966 (23,912)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粉砕剪定枝の養豚利用に係る検討研究</li> <li>・実証展示豚舎の設置および臭気測定調査</li> <li>・モデル農家のオガコ豚舎改修等に係る支援</li> </ul>	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
オガコ豚舎改修等支援農家数(助成)			26戸	25戸(4戸)
オガコ養豚に係る実証展示豚舎の設置			-	3戸
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	粉砕剪定枝の養豚利用に係る実証検証を実施し、豚の発育に影響がないことを確認した。モデル農家の実証展示豚舎において臭気測定調査を実施し、水洗豚舎に比べ、臭気発生が抑えられているデータを収集した。オガコ養豚モデルの豚舎改修等支援は、6箇所まで計画していたが、2箇所が辞退したため、4箇所の実施となっている。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
未利用資源活用畜産オガコ生産モデル事業	11,852	・畜産向け粉碎剪定枝の定義付けおよび堆肥化に係る研究 ・有毒植物生育状況調査 ・オガコ養豚モデル農家の技術支援	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

オガコ養豚普及促進事業における成果、事例、データなどを加えた「オガコ養豚経営実施マニュアル(改訂第1版)」を作成。  
 研究機関(畜産研究センター)における粉碎剪定枝の粒径等の検討、敷料利用における豚生産性への影響などについて研究を実施。  
 豚舎改修を実施したモデル農家に対し、技術支援を行なうとともに臭気測定など3戸において、実証展示を実施した。

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
オガコ養豚方式採用農家数	18戸 (23年)	20戸 (25年)	25戸 (26年)	↗	—
状況説明	平成26年度の新規オガコ養豚方式採用農家数は、本事業による支援による4戸と他の事業による1戸併せて5戸であり、過年度に整備した農家を含めると、計25戸が県内で採用している。今後、オガコ供給に係る課題の解決によりさらに増加する見込み。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・オガコの安定供給、価格、品質に課題がある。
- ・剪定枝の利用においては、毒性植物の混入が懸念される。
- ・剪定枝オガコの畜産農家への定着化が必要。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・剪定枝を活用した畜産向けオガコ生産モデルの作出に向けた取組を行う必要がある。
- ・県内毒性植物の混入予防および検査体制を確立する必要がある。
- ・オガコ養豚モデル農家の活用による剪定枝オガコの定着化を行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・研究機関における剪定枝を活用した畜産向けオガコの定義付けの検討研究の実施。
- ・県内毒性植物の生育状況調査、混入検査手法確立に取り組む。
- ・オガコ養豚モデル農家への技術支援を実施する。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	3Rの推進		
施策	②未利用資源の活用の推進			
(施策の小項目)	○バイオマスの活用			
主な取組	環境保全型農業支援	実施計画 記載頁	27	
対応する 主な課題	○本県の世界に誇る自然環境を保全することに加え、本県は狭隘な地理的条件にあることから、廃棄物の減量化など環境負荷を軽減する循環型社会を構築する必要があり、県内で発生した廃棄物の有効利用が求められている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	養豚における悪臭対策に優れるほか、効率的にふん尿の再利用ができるセルフクリーニング式オガコ養豚の普及を図るため、オガコの安定供給に向けた調査、講習会の開催・データ収集など普及啓発に取り組み、オガコ養豚方式導入に向けた豚舎改修などの費用助成を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	家畜排せつ物利用技術の開発					→	県
担当部課	農林水産部畜産課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
オガコ養豚普及促進事業	74,920	46,966 (23,912)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粉砕剪定枝の養豚利用に係る検討研究</li> <li>・実証展示豚舎の設置および臭気測定調査</li> <li>・モデル農家のオガコ豚舎改修等に係る支援</li> </ul>	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
オガコ豚舎改修等支援農家数(助成)			—	4戸
オガコ養豚に係る実証展示豚舎の設置			—	3戸
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	粉砕剪定枝の養豚利用に係る実証検証を実施し、豚の発育に影響がないことを確認した。モデル農家の実証展示豚舎において臭気測定調査を実施し、水洗豚舎に比べ、臭気発生が抑えられているデータを収集した。オガコ養豚モデルの豚舎改修等支援は、6箇所まで計画していたが、2箇所が辞退したため、4箇所の実施となっている。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
未利用資源活用畜産オガコ生産モデル事業	11,852	・畜産向け粉碎剪定枝の定義付けおよび堆肥化に係る研究 ・有毒植物生育状況調査 ・オガコ養豚モデル農家の技術支援	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

・オガコ養豚普及促進事業における成果、事例、データなどを加えた「オガコ養豚経営実施マニュアル(改訂第1版)」を作成。  
 ・研究機関(畜産研究センター)における粉碎剪定枝の粒径等の検討、敷料利用における豚生産性への影響などについて研究を実施。  
 ・豚舎改修を実施したモデル農家に対し、技術支援を行なうとともに臭気測定など3戸において、実証展示を実施した。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
オガコ養豚方式採用農家数	18戸 (23年)	20戸 (25年)	25戸 (26年)	↗	—
状況説明	平成26年度の新規オガコ養豚方式採用農家数は、本事業による支援による4戸と他の事業による1戸併せて5戸であり、過年度に整備した農家も含めると計25戸が県内で採用している。今後、オガコ供給に係る課題の解決によりオガコ養豚方式採用農家数はさらに増加する見込みである。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・オガコの安定供給、価格、品質に課題がある。  
 ・剪定枝の利用においては、毒性植物の混入が懸念される。  
 ・剪定枝オガコの畜産農家への定着化が必要。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・剪定枝を活用した畜産向けオガコ生産モデルの作出に向けた取組を行う必要がある。  
 ・県内毒性植物の混入予防および検査体制を確立する必要がある。  
 ・オガコ養豚モデル農家の活用による剪定枝オガコの定着化を行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・研究機関における剪定枝を活用した畜産向けオガコの定義付けの検討研究の実施。  
 ・県内毒性植物の生育状況調査、混入検査手法確立に取り組む。  
 ・オガコ養豚モデル農家への技術支援を実施する。